

---

# 爆碎牙

猫目石

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

爆碎牙

### 【Nコード】

N1074S

### 【作者名】

猫目石

### 【あらすじ】

殺生丸の新しい刀、爆碎牙が出現する場面を小説にしてみました。作品の下に当時のコメントも付けておきます。

「ソツ？ どうも始まりそうだな。どれ、よっこいしょ、見届けに行くか」

「猛々、濟まんが、ちよつくら、あいつらの処へ行ってくれ。ソッ判ってるだろうが、あの犬の馬鹿兄弟の処だ。思ったより早く始まるようなんだな」

黒雲たなびく中、ゴロゴロと轟音が響いたと思った次の瞬間、稲光と共に出現したのは、御存知、三つ目の妖牛、猛々に跨った刀々斎刀を鍛える大槌を携えている姿が、如何にも刀鍛冶らしい。かごめや弥勒、珊瑚、七宝や、りん、邪見、琥珀の驚きを他所に、惚けた風貌のまま、大して驚いた様子もなく、大きく円形に抉り取られた地面を見詰めてボソボソツと呟く。

「ああ、始まったな。鉄砕牙と天生牙……間もなく一本の刀になるぜ」

夢幻の白夜の怪しげな幻術で踏みしめていた地面ごと何処かへ連れ去られた犬夜叉と殺生丸。

かごめや弥勒達には見えなくとも、刀々斎には、今、何が行われているのか手に取るように判る。

何しろ、鉄砕牙、天生牙、共に心血を注いで鍛え上げた己の最高傑作。謂わば、あの刀の生みの親。

刀の素は、通称、『犬の大將』または『お館様』と呼ばれた、殺生丸と犬夜叉の父である大妖怪、鬪牙王の牙。

鉄砕牙も天生牙も犬の大將の形見。両刀は、大將の分身。

刀の意思是、即ち、今は亡きお館さまの意思。

そして、それは、当然、刀を鍛えた刀々斎にも伝わってくる。

・・・遂に、元の一本に戻るか。

犬の大將が、この世を去って既に二百年の歳月が経っている。

当時、犬夜叉は、まだ生れたばかりの赤子、殺生丸も、まだ少年の域を出ていなかった。

一振りて百の妖怪を薙ぎ倒す鉄砕牙、当然、兄の殺生丸が欲しがったが、お館さまの目論見は別の処にあった。

大將の配慮のままに鉄砕牙は赤子の犬夜叉の右目に黒真珠に封じて隠され、天生牙は殺生丸に譲られた。

その兄弟剣とも云うべき二振りの刀が同じ様に因縁の兄弟の闘いによって、今、一つになろうとしている。

良く決断したな、殺生丸。

尤も、お前の事だ。

どうせ、自分の物にならない技など持っているだけ無駄と判断したんだらうが。

それでも、お前なりに苦渋の決断だったらう。

何せ、冥道残月破は、お前が苦勞して育て上げた技。

それを犬夜叉に、そっくりそのまま、くれてやるうってんだ。

だがな、それによって、お前はもつと大きな物を得る事になる。

真の大妖怪に相応しい資質を、あの親父殿をさえ凌ぐ程の実力を手に入れる事が出来るんだぜ。

ああ・・・伝わってくる。

この波動。間違いない。

鉄砕牙と天生牙、兄弟の刀は、今、この時、一つに融合した。

「今・・・ひとつになった」

ドン！ 待つほどもなく空中に巨大な黒い冥道が出現した。  
冥道から零れ落ちた一筋の光。

キラツ・・・陽射しを弾いて落ちていく。

(光・・・？ いや・・・あれは・・・)

黒い刃の鉄砕牙を握り締めた犬夜叉が、殺生丸が、姿を現した。  
犬夜叉は随分ポロポロになってるな。

兄貴の方は、いつもと変わらず涼しい顔をしてやがる。

着衣ひとつ乱さず、まるで散歩のついでにチョイと出向いて来たって風情だぜ。

どれ、声を掛けてみるか。

「殺生丸。お前なりに納得できたかい？」

「もはや、興味はない。行くぞ、邪見」

すぐさま踵を返して一刻も早く、この場を立ち去ろうとする殺生丸を呼び止める。

「あれ・・・持ってけよ。冥道の中から落ちてきたんだ」

刀々齋が、顎をしゃくって指し示す先には天生牙が地面に突き刺さっている。

ズボツ、地面から抜き取った天生牙を殺生丸に差し出す。

「尤も、これは、最初の頃の斬れない刀・・・癒しの天生牙だがな」

「それで・・・？ それを持って人助けをして廻れとでも云うのか」

「ふざけるな」

捨て台詞と共に、もう用は無いとばかりに振り返りもせず足早に立ち去っていく殺生丸。

「オ イ」

呼びかけてるのに立ち止まりもしない。

全く相変わらず気が短い奴だぜ。

さて、どうしようか。

そう思ってたら妙に可愛らしい声が聞こえてきた。

おや、こりゃ、殺生丸が連れて歩いてる人間の嬢ちゃんじゃねえか。前に逢った時も思ったが、如何にも素直で無愛想なあいつとは似ても似つかんわい。

見た処、顔艶も良いし、ござっぱりした形なりでチャンと面倒を見て貰  
ってるみてえだな。

あいつに子育てが出来るとはなあ。

まあ、どうせ、邪見あたりにも何かも丸投げしてんだろつがよ。

それにしても変われば変わるもんだぜ。

あんだけ徹底した人間嫌いがなあ。

「あの  
」

「ん？」

「御機嫌が直ったら渡しとくね」

そう言つて、ちっこい身体で自分よりも大きな天生牙を持って殺生  
丸の後を追っかけて行く。

ん〜何べん見ても信じられねえな。

あんな気難しい奴を良くお守りしてるぜ、あの嬢ちゃん。

それに、あの琥珀とか言う退治屋の小僧も殺生丸に付いて行くみて  
えだし妙に人望が有るんだな。

チヨッピリ見直したぜ、殺生丸。

以前のお前からは想像もせんかったわい。

「おう、刀々斎」

いつもの生意気な物言い、犬夜叉が声を掛けてきた。  
少しは回復したらしいな。

「殺生丸は、どうなる・・・？ 武器を無くして・・・」

フン、一丁前に兄貴の心配をしてやがる。

まあ、こいつが技を譲ってくれと頼んだ訳じゃねえが、多少、気が  
咎めてるのかも知れんな。

「兄貴の心配より、おめーは早いとこ新しい鉄碎牙を使いこなしな」

「冥道から出られたのだから、自分ひとりの力じゃねえって判って  
んだろ？」

「ああ・・・」

流石に、さっきの今じゃいつものクソ生意気な態度が抜け落ちてる  
な。

まあ、それは置いていて、差し当たったの問題は殺生丸の方だ。

あと一歩で、あいつは親父殿の形見じゃなく自分自身の武器を手  
に入れる処まで来てる。

儂もこうしちゃおれんな。

朴仙翁の処へ行って鞆の材料にする為の杖を強請りに行くか。

朴仙翁は、あれで結構、殺生丸を可愛がってるから『否』とは云わ



んだらうさ。

酒盛りついでに犬兄弟の近況を話してやれば噂好きのあの爺さんの事だ。

きつと喜ぶだらうぜ。

冥加も捜して一緒に連れて行ってやるとすつか。

置いてくと五月蠅いからな。

殺生丸が犬夜叉に自分の育てた技、冥道残月破を譲ってから何日、経過しただらう。

容易ならざる気配を刀々斎は感じ取った。

ピリピリするような異様なまでに大気が活性化した状態。

これは、恐らく、殺生丸の新しい武器が出現する前触れ。

こりゃ、いかん、グズグズしちゃおれん。

「急げっ！ 猛々！ 殺生丸の新しい剣が、いよいよ現れるぞっ！」

取るものも取り合えず現場へ急行してみれば、案の定、奴は戦闘の真っ最中だった。

フ〜ン、犬夜叉も、かごめも居るな。

それに法師や七宝、退治屋の珊瑚ってえ娘っ子も。

阿吽に乗ったりんに邪見、琥珀と、みんな雁首そっくり揃えてやがる。

状況から判断して兄弟揃って仲良く共同戦線を張ってたって処か。

まあ、通常なら、あの殺生丸の事だ。

絶対に犬夜叉達と力を合わせて戦うなんて事は、まず、せんだらうが。

それ程、尋常ならざる相手と戦っているって訳か。

ああ、現れはじめてるな、この光、闇を切り裂く雷光のような輝き。もうすぐだ。もうちょっとで、お前は自分の刀を手にするだろう。バチバチと雷のように放電する音と閃光の中に朧気に輪郭が見え始めている。

（さあ、見せてみる、殺生丸！ お前の刀を！）

（誰の借り物でもない、お前の中から出てきた、お前の為の、お前だけの刀を！）

殺生丸が、こちらに目を遣る。

どうやら、気付いたみてえだな。

お前の新しい刀の存在に。

それに失くした筈の左腕が再生してるって事も。

稲妻のような光の中に浮かび上がった『その刀』は刀身にも柄にもビッシリと雷紋が刻まれている。

一見、天生牙に良く似た細身の大刀。

だが、その刀“爆碎牙”こそ天生牙の対極に位置する究極の“破壊”の刀。

その破壊力は鉄碎牙でさえ爆碎牙に遠く及ばない。

ひとたび一度振るえば千の妖怪を薙ぎ倒し破壊し尽す。

神の怒りにも等しい力を有する刀。

空恐ろしい程の破壊力を秘めている。

だからこそ、以前の冷酷無慈悲なお前には決して持たせられなかった。

と言うよりも出現しなかった。

この爆碎牙と天生牙、共に慈悲の心なき者には決して所有する事が

許されん。

お前は天生牙を正しく使いこなす事により大悲たいひの心を示した。更に犬夜叉に自分が育てた冥道残月破を譲る事によって親父殿や半妖の弟に対する長年の確執、様々な執着を捨てた。

そうする事によって遂にお前は爆碎牙の正当な所有者としての資格を得た。

今のお前を見たら、きっと、冥土の親父殿は草葉の蔭で喜んでくれるだろうて。

大将はな、殺生丸、お前に誰よりも期待してたんだぜ。

親である自分さえも叶わない不世出の才能を秘めてるってな。

正直、僕はそれを聞いても半信半疑だったけどよ。

まゝた、大将のいつもの親馬鹿だと思っただけさ。

だってよ、いくら、才覚が有ったって“冷酷無慈悲”の代名詞みてえなお前がだぜ、慈悲の心の証明である天生牙を使いこなすなんてよ。

思ってもみなかったわい。

況してや、人の仔を助けるなんて。

儂じゃなかったって誰も想像せんかっただろっさ。

だが、親父殿の目に狂いは無かったな。

単なる親馬鹿じゃなかったんだ。

お前は、その全てを見事にやってのけた。

わざわざ朴仙翁に頼み込んで枝を譲ってもらって来た甲斐が有ったぜ。

その刀、爆碎牙には、この儂が直々（じきじき）に鞘を作っただけ。

今迄のお前の並々ならぬ努力に対しての褒美としてな。

それにしても、殺生丸、お前は本当に執念深い奴だぜ。

西国を出奔して、二百年もの間、大将の形見の鉄碎牙を捜し回り、遂に見つけ出しちまった。

それで、見つけ出したは良いが、鉄碎牙を自分の物にするどころか、

見下してた半妖の弟、犬夜叉に左腕を斬り落とされちまったんだもんな。

踏んだり蹴ったりとは『正にこの事』だよな。

それでも、頑固なお前は諦めようとはしなかった。

再三再四に渡り、鉄碎牙を奪おうとして、あの手、この手で仕掛けてきたっけ。

イヤハヤ、呆れた執念だったぜ。

ようやくと、お前が鉄碎牙を諦めたのは、風の傷を、まともに喰らった時だったよな。

あの時、初めて天生牙が自分の意思で結界を張り、風の傷から、お前を守ったんだっけ。

刀の所有者として認めただ。

でなきゃ、お前が如何に大妖怪であろうと命は無かった筈だぜ。

その後、何が有ったかは知らん。

だが、決定的な敗北を喫した後、お前の中の何かが変わった。

次に逢った時、お前は小さな人間の娘っこを『りん』を連れていた。あん時は本当にぶったまげたぜ。

半妖の弟、犬夜叉も、随分と儂を驚かせてくれるが、お前に比べりゃ、どつて事ないぜ。

全く意表を衝くとは、お前の事だ。

筋金入りの人間嫌いと言われたお前が人間を連れてたんだもんな。

それも、ちっこい雛みてえな嬢ちゃんを。

お天道様が西から昇ったと云われても信じちまいそうだった。

そんなくらい衝撃的だったわい。

多分、あの、人間の嬢ちゃんが、お前を変えたんだろっな。

そして、今日、とうとう、長年の望み通り遂に親父殿を超えちまった。

本当に大した奴だぜ。

怖ろしく強情で、トコトン妥協を嫌い、我が道を行く。

犬の大將は、そんなお前の性格を知り抜いてたんだろっな。

だからこそ、こんなに厳しい試練の道をお前に用意したんだ。

鍛えに鍛え抜かなければ名刀が生まれないように、殺生丸、お前も、鍛え抜かれる必要があった。

“爆碎牙”と“天生牙”と云う相反する希代の名刀の所有者として、今のお前には、最強の大妖怪と呼ぶに相応しい力量と度量が備わっている。

僕は、しがない刀鍛冶じゃが、これまでの経緯いきほの全てを知る者として爆碎牙の出現を心の底から言祝ことほごう。

「見事だ、殺生丸。」

了

大悲だいひⅡ【仏】衆生を苦しみから救う仏の大きな慈悲。

2007・12/8(土) 猫目石

《小説第四十二作目『爆碎牙』についてのコメント》

当初は、別の題で書き出しましたが、微妙に内容とのズレを感じて、今の題に変更しました。

滅多に題を変えない私としては珍しい例です。

最近、オリジナル作品ばかり書いていたので原作に沿った作品は久しぶりです。

ジックリと原作を読み込みながら書き進めました。

そのおかげで、今迄、気付かなかった二・三の事実にも気付かされました。

初めて小説を書き始めたのが『闘鬼神、再び』でした。

その後も『闘鬼神誕生』『天生牙』『闘鬼神再生（裏話）』『天剣』  
と刀剣に纏わる話を随分、書いてきました。  
どうも、管理人は細身の美しい剣に特に心惹かれる傾向が有るよう  
です。

2007・12/9（日） 猫目石

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1074s/>

---

爆碎牙

2011年7月9日04時58分発行